

明治大学 公益財団法人 村田学術振興・教育財団 研究助成研究の概要

◇テーマ名 「車両データとドライブレコーダーの利活用による紛争処理の高度化に向けた研究」

◇研究意義 交通事故の証拠処理と責任判断の客観性向上を目指す。

◇背景と課題／解決

- ・背景
 - 警察作成「実況見分調書」 当事者供述・目撃証言を基。作成者の主観的バイアス・判断混入
 - ドレコ映像 限定的な撮影・改竄リスク、観察者の主観的判断に依存
(自動運転では、さらに事故当事者がいない)
- ・目標
 - EDRやドライブレコーダーデータを融合し、公正、客観的、定量的な事故紛争解決システムベースを構築する。
- ・課題
 - 車両データ等も用いた軌道再現・因果関係分析を自動に実施、責任判断から主観的判断の排除
 - 裁判官や仲裁者の判断に、客観的分析結果の拘束力をどこまで導入できるかを議論
(米国量刑ガイドライン導入事例：判断の公平性と個別事情考慮のバランスが問題)
(裁判官の自由心証主義を尊重 ⇔ 機械的なガイドライン適用 ← 反発が大きかった)
- ・解決
 - EDRとドライブレコーダーデータの融合
 - 融合したデータの可視化、判断アルゴリズムの構築、客観データ出力
 - 構築したシステムの信頼性の高い評価方法の考案
 - 責任分担判断のためのアルゴリズム
 - 日本の法制度に合う客観データ活用法と判断拘束力の在り方を法・倫理・社会的観点から検討
- ・効用
 - 複雑化する事故の公平・公正・迅速な解決と新たなモビリティ導入の土壌 ⇒自動運転の社会許容性向上
 - これらを実現するための車両装置、使用部品、ソフトウェア等の産業拡大・発展 ⇒新たな市場拡大
 - 技術・法的環境の整地化で、産業界へのスムーズなバトンタッチを実現 ⇒実用化が容易に